

数知 第13回 社内木鶏全国大会 in東京

主催:致知出版社



6月号

の 、

その

々

の

仕 事 社

は

生

き

物

と言い

ま

す

し

<

そ

の

IJ

つ

がの

ま

ず、

つ

し

予の先

そ通

日で

か

で

の

を し 木 が き

れる る

存 で

在 変

で

か

くこと

木

の 鶏 社内報 第222号

発行日 2025年6月25日

株式会社 横浜セイビ

発行責任者:津幡 電話 045-871-8394 FAX 045-871-8374

年間テーマ:『共有・共感・<mark>共振</mark>・共鳴』 ~成長はみんなのために~

社 内 木 鶏 全 国 大 会 を 通 し て 想うこ

て、 全 現するエー ルが行われ 숲 し ま ij 社 員 を 当 日 のし 活 が の言葉、社長のことてどのように^ 況を呈して 旧の参加 東 者 いは プ ました。 言 숲 ま 総 IJ ンス 葉 社 L 勢 た。 を 1 そし 2 改 善 当 テ 0 西 て ī 社 0 富 ル て で 名 さ 最 に を き ŧ h て 後 に た導 超 入して 共に足 える はか 会 を、 1 社 盛 の映い 大 を な運社 雰像る 人ん内 囲を社 気 通 内 数 で木 ダー

が大切で 変わってきます。世のの年の成果が変わって事をどのように取り細 方 全 あ 々が大きな 玉 り続けるた す。現状維 大会の最 いう内容で はなく、 自 声 後 持めには中 め世 ってきますり組んでいいまさ す 分 で は 心んでいく. 自 読 は み上げて 毎 年 左 大きく変わる 身 が 衰退につながります nがその 常に変 大 ハきく • の 心 燈 化 変 が 終 冨萬 わりま へわっ ع を ۲ れっていた とき 燈行 恐れ な つ ず。 て、 <u></u>を ず 挑 くにのあ で文変世致 戦 中向 要りの字えの知 でいそて し とま動通て行出 て選ての < いばい月日 りい 版

行動

つの を りでそれ相応のでで変えていくには 『大変』です。 てきます でそれ相 覚はこ 見らって 悟力れは ががま、 必要 す き な

き あ ず け IJ な て IJ がます。 ましょう 心 果い 心を言葉でいくために なす。今後 いくために 行しはもてさん でい変にそのを く化 表 発の献迎 を展も身え し て前恐をの的ま

向れ続

でな

Ì

れ

ば

不平不満

が

を

平

お

力

会

こ社

れは

年

5

まで 来

の

뱜

ん年

い習弾日 の 谷 **ග** ナウシカ に 学 ぶ ij ダー

لح

は

にてり

光ります。ご覧になられた方やファンの方はお 責任で物事を決めてい 像を体現していると言っても過言で て改めて感動しました。ナウシカは ナウシカは決断することを決して人任せにせず ていた時、ナウシカの 古 行をしてきました。 ま IJ す。緊急時の迅 言動 クの 行く前 から チケッ は 倒 ジブリ映画 まさに ないと思い 速 ۲ 的 か な が っ つ 的 カリスマ ع 理 想 確 ま の を 日 な す。 性見 IJ 判 自

断分

るようでなかなかうまく出来ません。そして、 る時の口調が変わりナウシカは状況を見極めな 気付きだと思いますが、ナウシカは普段と命令す できるリーダーです。城オジ達が乗った船が墜 ナウシカは決断できるだけでなく、 確な指示を的確なトーンで話す、これ し、カリスマ的な魅力で人を従わせることが 自ら積極的 は出 が に 来

ら 的

為に、 受こを まです指と上 し そうな る んし、 ح 部 ナウシカが腐海の瘴気がある場所にも関 出諦 を 並 城 下の 時、 めす 何 し 何をすればいいのか明しているのが素晴ら―めるな」みたいな曖昧すべきかを明確に指示 オジ達に荷物を捨てるように指 ^べきかを明確に指示してい・-達のパニックを一瞬で沈め・-人間には出来ない行動です。 助かることを諦めていた城オ は 組 織 の 人 間 昧 示 明 し 明確で迷いな、いいですね。如いですね。かいですね。かいしています。 等 自 元を出 扱な l 分 で 。け ジ 達 で リスクを わらず ´、デ 具ン なく、 を ま なだ いて で 立 具 す たっきはき場体バ、を資シ組なるか的レそ引 マ ス め

ク る

不 が ジブリパークにて あ

もお体を大切に言

猛

た。

酷く

暑れ

に ぐ

ず

宜しくお

致

L

ま

治す

「天空の城ラビュタ」

をは力 その を低 Ì して 点で 下 ż せ 非 す ま ま 常 す す で 0 に 、ナ 優 つ理 ニメ れ の もり世質カ織り訳らにしのき

郎

た活 う始 0 ラ方驚 イの異邦

聴ル達と狂魅をばはにえをす人残す今ブ中的 ズは思は了ルれ知浸てカ。達り。のににな メ最いアし丨るっっきバまは続青若行は売 ました。 | た今け春者 高まイまツ界てて 峰すドしに隈いみ でる時達 し ったながるる。 た。 た。 もも代にも きを。 自あ人の きこ在語のにも 楽含私のりはもの た。 と活りで何な た。楽含私のりはものと活りで何お人にも 今シめも世ま少楽とを躍継す度勧もだま 今~、そ界すなし、きすがトナル 本し私ン全の観 °いいトつるれね聴しいド はのジーをへとと曲かミる ∘いたのに をを °しタす 走比当 `ルが ンャ山で歳 0 1 思い り較時多やV邦 にン生取にス ながみりなト 続しのくハ系 出 ッやる過出上つがかめ -とたもイフドック懐 こ去しげて沢 クのかとのてらも山 。たコいしてにルドだ熱をク呼にさ増曲またにま い心質っ歴に店

ع て て プ 0 u し Т ば メのかを ۲ u b し ばバほ て春 < ズバ であンぼ りキ毎 が続しのく まン日 も出にに の感し出バッチがの 素れ人じま向ン^をへ をよガバーブァロ 晴ま生なすいド聴笑しう丨ン番のンッと中しも名いれ心い 願作症厚

6 回 社 内 木

るや的た史よ減読 り少書 よ向側国を う 上面家振読、立 心よはり解読国 がり衰返 力書し が も退る や文が うと 薄国 語 ع ٠ 民経自 一済国 あ に 力 一済国 人力の IJ な の ま ること す ひが古 0 と衰典 りえや てはが のる歴 、常大心と史 つ果利合^く衰り学 いいのスた読さ理起えまば家T離 る本マよ書快的因、すな興のれ



に見け

。に求を で つ情便さめ求 て報利れ過め人 鳴しをなてぎ ま得Pした って C ま結便にきのあを て て 物 哲 す 現 質 ホ う が 適 な し 愛 。く 亡 発 。代をだで蔑さ社て国物なの達書

症 対

し現策労 て場の働 おの強省 りよ化よ にり つ つい 熱て 6 中は 症 高 1 て 温 の 日 お が 義 、すそ高 を度 化場 感の 中さに じ中^さに たでれお 際作まけ 。中

い業対生

声た方 ま 下員理 す をだは さ ◦掛き特い本るれ湿 ◦社 ٦ 付管内対け数に け理し策合名気おまと にま詳うのを一でな さはす細な現付人相く ◦はど場け作談担に業しる いく °れ皆改願でて業し当はをた熱 ぐさめいはいのて社無お

6 ◇ え くださいるなお誕 月 中 旬 後 ら 生 日 を お 迎

ご生

ざ日

いお

まめ

すで

れなす を家なす 。 、 年 。 見 て 確 でら のず、事われ 、引 IJ 時間 を ることと غ それぞれ 々暑さも わか 付 続き栄 通時 眠 お ŧ け れ 願 勤 間 時 暑さ て 時中で い 養思 エ 厳 対間のい し い夫し さ くま策やみま 保るま

ら 6 のれた皆様ですり月に誕生日を紹 日を迎え